０７／０７／０８　　礼拝メッセージ　　近藤修司　牧師

主　　題：キリストを愛し続けた人　―　パウロ（３）
聖書箇所：使徒の働き　２６章１９－２０節

　前回、「自分が本当に救われている確信をもつためにどうすればいいのか」、そのことを話すと約束したのですが、今日はそこまで行けそうにありません。というのは、この福音のメッセージは私たちにとってとても大切だから、もう少ししっかり学んで行くことが必要だからです。主が示してくださることをごいっしょに学んで行きたいと思います。もし、次回ということになったらどうぞお許しください。
　パウロは私たちに本当の福音、すなわち、人をその罪から救い出し新しく生まれ変わらせることができる希望の救いのメッセージ、それはどのようなメッセージだったのかを教えてくれました。そのことを私たちは見て来ました。覚えておられるように、悔い改めて神に立ち返り、悔い改めにふさわしい行ないをするようにと、この２６：２０節で見ました。罪を悔い改めてイエス・キリストを信じなさいと、神への悔い改めを命じるメッセージです。それをパウロは語り続けたことを私たちは見て来ました。しかし、現実は、この悔い改めを語らない人や教会が多いのです。ある人々は悔い改めを語る必要はない、ただ信じるように勧めたらそれでいいと、そのように教えます。彼らはこのように考えます。信じ易いメッセージ、罪の悔い改めを語るのではなくて、天国に行きたければイエスを信じなさい、そういうメッセージの方が人々は信じ易いと言います。幸せになりたいですか？とこんなメッセージの方が、あなたは自分の罪を悔い改めなさいというメッセージより遥かに信じ易いと。彼らは自らの巧みな話術であるとか、決心し易い雰囲気を作り出すことによって、人を救うことができると考えているのです。だから、福音のメッセージを人が信じ易いと思えるメッセージへと自分たちで変えてしまうのです。彼らは信じ易いことを強調する余りに、信じることを妨げたり難しくする部分だと自分たちが思うところを省いてしまうのです。しかし、私たちが考えなければいけないことは、神が私たちに託された救いのメッセージ、福音とは何なのか、そのような信じ易いメッセージが本当にそれなのかどうかということです。結論を言えば、それは大きな間違いです。それは使徒たちが語ったメッセージではありません。
　Ｊ・Ｉ・パッカーという神学者はこのように言っています。「伝道とは信じるようにと呼びかけると同時に、立ち返るようにと叫び掛けること、すなわち、ただ救い主を受け入れよとの神の招きを伝えるだけでなく、罪を悔い改めよと神の命令を伝えることである」。確かに罪人が悔い改めてイエスを信じることは容易なことではありません。だから、みことばは福音を信じることが難しいと記しています。しかし、私たちが覚えなければいけないことは「救いは神の恵みによる神のみわざである」ということです。そのように皆さんも信じておられるでしょう？救いというのは人間の働きによって勝ち取るものではありません。神の一方的な恵みによって与えられるものです。私たちがそのことを信じているなら私たちの福音宣教の責任は何でしょう？それは福音のメッセージを正しく語ることです。このように語るなら人は信じるに違いないなどと考えてはならないのです。同じＪ・Ｉ・パッカーはこのようにも言っています。「実際にあなたが伝道しているかどうかを告げる方法は、あなたの証によって回心が得られたかどうかを問うことではない。それはあなたが福音のメッセージを忠実に知らせたかどうかを問うことである」と。私たちがもし、自分たちが語ることによって何人の人が救われたと、そのようなこと考え自慢するなら大変な間違いを犯しているのです。私たちは人を救うことはできません。それは神のわざです。ですから、私たちが本当に伝道しているのかどうかを真剣に考えるなら、私の語っているメッセージは神が語れと言われているメッセージかどうかを問うことです。それを神が評価されるのです。しかし、いつの間にか教会は、私はこれだけの人を救いへと導いたという数に関心が移っているのです。私たちはもう一度元に戻らなければいけません。私たち一人ひとりのクリスチャンに、また、教会に神が託された働きは、神のメッセージを正しく忠実に語り続けて行くことです。そのために私たちはこの語るべきメッセージを正しく理解していなければいけません。
　ということで、私たちは前回からそのメッセージを見て来たのです。前回は、非常に簡単に学びました。覚えておられますか？罪を悔い改めること、イエス・キリストを信じ受け入れること、イエスがメシヤ、救世主であること、しかも、その方を信じるということは、ただ単に事実を認めることではない、イエスがメシヤであり救い主であり神であり、あなたの罪を赦すことができるお方であることを信じて、罪の赦しを求めることであると。同時に、今から神に対してすべてを捨てて従って行く決心でもあります。どのような迫害があっても。そのことを私たちは見て来ました。そして、私たちはイエスを信じることによって霊的な目が開かれ真理を見ることができるようになり、罪の赦しが与えられ、聖なる者とされ、御国を受け継ぐのだと、そのようにみことばを見て来ました。今朝はもう少し詳しく、私たちが

語るべきメッセージを見て行きましょう。私たちがどうしてもしっかり学んでおかなければいけないことは、このいのちに関わるメッセージです。私たち自身が信じて救われるこの福音のメッセージ、また、私たちが人々に語るようにと神から託されたメッセージ、私たちは少なくともこれだけはしっかり理解して語らなければいけません。それは、

１．神がどういうお方であるかを知ること

どこに国に行っても「神」ということばは使われています。多神教の国に生きている私たちにとって、非常に厄介なものがこの「神」ということばです。私たちは「神」と聞くといろいろな神を想像します。ですから、私たちは正しく神を知ることが必要です。

２．人間とはどういう存在かを知ること

人が自分をどう見るかではなく、神が私をどのようにご覧になっているのか、本当の私たちの姿を知ることが必要です。

３．イエス・キリストはどういうお方で、何をなさったかを知ること

４．人間の選択の責任を知ること

神に対して私たちはどのように生きて行くのか、そのことを知ることが必要です。

これらのことを順に見て行きましょう。

☆私たちが語るべきメッセージとは？

１．神がどういうお方であるかを知ること

聖書が教える神とはどのようなお方か、私たちはこのことに関して二つのことを覚えたいのです。

１）すべての創造主

パウロがアテネの町を訪問したとき、町は偶像でいっぱいでした。そのときパウロは彼らに対してこのように言いました。使徒の働き１７：２４－２６**「この世界とその中にあるすべてのものをお造りになった神は、天地の主ですから、」**、多神教の人々、神はたくさん存在すると信じていたこのギリシャの人々に対してパウロが教えたことは、神はすべてのものをお造りになった方、創造主だということです。パウロは続けてこう言います。**「手でこしらえた宮などにはお住みになりません。:25 また、何かに不自由なことでもあるかのように、人の手によって仕えられる必要はありません。神は、すべての人に、いのちと息と万物とをお与えになった方だからです。:26 神は、ひとりの人からすべての国の人々を造り出して、地の全面に住まわせ、それぞれに決められた時代と、その住まいの境界とをお定めになりました。」**、すべてのものを造った創造主なる方がいる、創造主なる方こそ神だと言うのです。ですから、私たちもしっかり知らなければいけません。神は創造主であると。世界のすべてを造られ、そして、私たちを造られたのです。

２）聖いお方

聖い正しい罪のないお方です。イザヤは神の前に仕えている天使たちを見ました。セラフィムです。罪のない天使たちが聖い神を恐れながら主を礼拝している様子をイザヤは目の当たりにしました。イザヤ書６：３に**「互いに呼びかわして言っていた。「聖なる、聖なる、聖なる、万軍の主。その栄光は全地に満つ。」**とあります。罪のない天使たちでさえもこの神の前では恐れを抱きました。なぜなら、余りにも聖い正しい神だからです。私たちにはこの恐れというものが欠けてしまっているのではないでしょうか？天使たちは恐れをもって神を崇めていました。それをイザヤは目撃したのです。このように聖い正しい神ですから、その方によって造られた私たち被造物にも同じことを要求されるのです。聖くありなさいと。神があなたに望んでおられること、あなたに命じておられることは聖く正しくあることです。**「それは、「わたしが聖であるから、あなたがたも、聖でなければならない。」と書いてあるからです。」**（Ｉペテロ１：１６）とペテロは旧約聖書のことばを引用してこのように言いました。これが神が私たち人間に対して命じておられることです。

２．人間とはどういう存在かを知ること

二つ目に、あなたは自分自身を知ることが必要です。私たち人間は神の目にどのように映っているのでしょう？それは不従順で絶望的な罪人として映っているのです。このことに関しても私たちは二つのことを覚えます。

１）罪人である

私たちは救いに関しては絶望的な存在なのです。パウロはエペソ人への手紙の中でこのように言いました。２：３**「私たちもみな、かつては不従順の子らの中にあって、自分の肉の欲の中に生き、肉と心の望むままを行ない、ほかの人たちと同じように、生まれながら御怒りを受けるべき子らでした。」**と。もう私たちがすでに見て来たように、生まれながらの人間は皆、神に対して不従順だと言っているのです。先に見たように、神は聖い方であるからあなたたちも聖くありなさいと言われたのに、私たちはその命令に従っていません。それだけではありません。私たちは神に逆らい続けているのです。ローマ３：１０－１２、１８でパウロは人間についてこのように言っています。**「それは、次のように書いてあるとおりです。「義人**

はいない。ひとりもいない。:11 悟りのある人はいない。神を求める人はいない。:12 すべての人が迷い出て、みな、ともに無益な者となった。善を行なう人はいない。ひとりもいない。」　:18 「彼らの目の前には、神に対する恐れがない。」、人間の問題はまさにこうです。今の時代は何にも恐れをもっていない、恐れるものがない時代だと言われます。子どもたちは親も恐れないし、権威も恐れない、まして、神など恐れるはずがありません。でも、これは今の世の中の問題ではなくて、人類の歴史を振り返って見たとき、同じことが繰り返されて来ました。神を恐れない、その結果、人間は好きなように生きるのです。人間は不従順な者として生まれ、神に逆らい続けている、しかも、人間は神に対して頑なであり続けるのです。**「ところが、あなたは、かたくなさと悔い改めのない心のゆえに、御怒りの日、すなわち、神の正しいさばきの現われる日の御怒りを自分のために積み上げているのです。:6 神は、ひとりひとりに、その人の行ないに従って報いをお与えになります。」**（ローマ２：５－６）と非常に恐ろしい警告が神によってなされています。神の愛、神の恵み、神の救いに対して一度も心を開かず、神を拒み続けていると言うのです。だから、神は警告したのです。あなたの罪は必ずさばかれると。このような罪を犯している私たち、これが神の目に映っている私たちの姿なのです。

２）救いが必要な罪人である

　そして、あなたがいかに絶望的な罪人であるかを神は教えてくれます。絶望的、つまり、自分で自分を救うことができないのです。エレミヤはこのようなことを言いました。**「クシュ人がその皮膚を、ひょうがその斑点を、変えることができようか。もしできたら、悪に慣れたあなたがたでも、善を行なうことができるだろう。」**（エレミヤ書１３：２３）、もし、このような不可能なことができるのなら、あなたも善を行なうことができるだろうと、つまり、エレミヤが言うことは、私たちは変わらない、私たちの心はどんなに頑張っても、どんな生まれ変わろうと決心しても無理だということです。自分の罪を見て、何とかその罪から逃れようと一生懸命努力しても、私たちにはできないことだと言うのです。何度も見て来たように、罪を犯せば神のさばきがあります。この社会でもそうです。罪を犯せば罰せられます。その罰則から逃れられるのは捕まらなかったり、バレなかったりと、でも、神の前にはすべて分かっています。神のさばきから逃れることができる人など存在していません。どんなに努力しても自分の力で自分を変えることはできないのです。みことばが教えるように、私たちは救いに関して絶望的なのです。私たちは白旗を振って、神さま、もう無理ですと言います。私たちにできることは罪を犯し続けて神に逆らい続けることだけなのです。だから、どんなに罪を止めようとしてもできないのです。神が望まれている聖い正しい人になることなど私たちの力では無理なのです。そのことを知らなければいけないのです。あなたはあなた自身で自分を救うことはできません。救いに関して私たちは全く希望のない絶望的な存在であると、それが神が言われていることです。

３．イエス・キリストはどういうお方で、何をなさったかを知ること

　イエスの身代わりの十字架と復活を知ることです。三つのことを見ます。

１）イエスはすべてのものの主

　すべてのものを支配している主権者だと言います。ヨハネは黙示録１７：１４でこのように言います。**「…なぜならば、小羊は主の主、王の王だからです。…」**、小羊、つまり、イエス・キリストは主の主、王の王だと。ペテロがカイザリヤでコルネリオと出会っています。最初にイエス・キリストを信じた異邦人と言われていますが、そこを訪問したユダヤ人であるペテロは、神がコルネリオのうちにすばらしいわざを為しておられること、救いのみわざを為しておられることを見たとき、このようなことを言っています。**「これで私は、はっきりわかりました。神はかたよったことをなさらず、:35 どの国の人であっても、神を恐れかしこみ、正義を行なう人なら、神に受け入れられるのです。:36 神はイエス・キリストによって、平和を宣べ伝え、イスラエルの子孫にみことばをお送りになりました。このイエス・キリストはすべての人の主です。」**（使徒１０：３４－３６）。みことばが私たちに教えてくれていることは、イエスはすべてのものを支配しておられる主権者であるということです。この方に優る存在はいないのです。この方は永遠から永遠に主なのです。

２）イエス・キリストは人となられた真の神

　ヨハネ１：１４に**「ことばは人となって、私たちの間に住まわれた。」**とあります。神であることばが人間となって私たちの間に住むようになったのです。主の使いが現われてこのようなことを言いました。マタイ１：２３**「見よ、処女がみごもっている。そして男の子を産む。その名はインマヌエルと呼ばれる。」**、この**「インマヌエル」**とはどういう意味だったのでしょう？**（「神は私たちとともにおられる」という意味である。）**、つまり、真の神が私たち人間の間に来て住んでくださった、神が人となられたのです。だから、イエス・キリストのうちには何の罪もなかったのです。ペテロはこのように言っています。Ｉペテロ２：２２－２３**「キリストは罪を犯したことがなく、その口に何の偽りも見いだされませんでした。:23 ののしられても、ののしり返さず、苦しめられても、おどすことをせず、正しくさばかれる方にお任せになりました。」**、完

全に聖く正しかった、罪がないお方だったと言います。ヨハネもこのように言います。Ｉヨハネ３：５**「キリストが現われたのは罪を取り除くためであったことを、あなたがたは知っています。キリストには何の罪もありません。」**と。なぜ、イエスには罪がなかったのか、人となられた神だからです。聖い正しい罪のない神、その方が人となられたのです。ですから当然、彼は私たちのように罪をもって生まれてきたのではなかったのです。

３）イエスの十字架と復活

身代わりの死と復活です。パウロはこう言いました。**「神は、罪を知らない方を、私たちの代わりに罪とされました。それは、私たちが、この方にあって、神の義となるためです。」**（Ⅱコリント５：２１）、罪を知らない方、罪の全くない正しい方を私たちの身代わりとして罪としたというのです。イエス・キリストの十字架は私たち罪人の身代わりだったというのです。それは、イエス・キリストによってイエスを信じるすべての人が罪赦されて義となるため、聖くなるためです。また、彼はこのようにも言います。**「キリストが私たちのためにご自身をささげられたのは、私たちをすべての不法から贖い出し、良いわざに熱心なご自分の民を、ご自分のためにきよめるためでした。」**（テトス２：１４）、イエスが私たちのためにご自分のいのちを捨ててくださったのは、私たちをすべての不法から、その罪から贖い出すため、救い出すためだと言います。もう一箇所、ローマ４：２５ではパウロはこのように言っています。**「主イエスは、私たちの罪のために死に渡され、私たちが義と認められるために、よみがえられたからです。」**。つまり、みことばが私たちに教えていることは、イエスが十字架で死なれたのは私たちの罪の身代わりであったということ、そして、その死によって完全な救い、罪の赦しをイエスは備えてくれた、そして、死後三日目によみがえることによって死と罪に完全に勝利された真の救い主であるということ、そのことを心から信じ受け入れることだということです。

イエス・キリストとはいったいだれなのか？すべてのものを支配しておられる主権者であり、人となられた真の神である、そのイエスが何をしてくださったのか？あなたの罪を負ってその罪を赦すためにご自分のいのちを捨て、そして、その死と罪から敢然とよみがえりをもって勝利された方です。神であり救い主であり主であられるお方、それがイエスです。そのようにみことばは私たちに教えるのです。福音のメッセージを私たちがしっかり理解することは、このようなことを私たちがしっかり心から受け入れることです。私たちが福音のメッセージを語るとき、私たちが今見て来たことを除いてはならないのです。これが神が私たちに教えている福音のメッセージだからです。

４．人間の選択の責任を知ること

私たちの応答です。罪を悔い改めてイエスを主と告白することです。それに関して二つのことを見て行きます。

１）自分のすべてを捨ててキリストを信じ受け入れること

このような愛をもって、イエス・キリストをこの世に遣わし、イエス・キリストをあなたの身代わりとして十字架で殺してくださり、あなたのために救いを備えてくださった神、その方があなたに命じておられることは、あなた自身のすべてを捨てて、キリストのすべてを信じ受け入れることです。先ほど見たアテネにおけるパウロのメッセージ、パウロはアテネの人々に神はどういうお方かを話した後、このように言っています。使徒１７：３０**「神は、そのような無知の時代を見過ごしておられましたが、今は、どこででもすべての人に悔い改めを命じておられます。」**と、パウロはそのような神でないものを神として崇拝し神に逆らって来たその罪を悔い改めて神に立ち返るようにと、アテネの人々に神からの命令を語りました。そのような罪は止めなさいと。神でないものを神として崇拝して来たこの偶像崇拝の罪、実は、この罪はアテネの人々だけの罪ではありません。私たちも同じような罪を犯しています。私たちは神から託された人生を、神のためではなく、自分のために生きて来たのです。よく考えて見てください。神はあなたにいのちを託してくださった、神のために用いるようにと。でも、あなたはそれを自分のために用いて自分のために生きて来た、皆さん、これは罪です。神のみこころに従うよりも、自分の夢や考えや計画を第一に考えて歩んで来たからです。私たちは神のみこころが何かを求めてそれに従って行くべき人間なのに、それらをいっさい無視して、自分の考えに従って生きて来た、これは罪なのです。私たちは聖書の教えに従うことよりも一般的な常識やこの世で尊ばれている人の教えを尊重していないでしょうか？神を喜ばせることに最善を尽くすよりも自分を楽しませ喜ばせることを追い求めて生きて来た、そのようではありませんか？神を信じるのではなく自分を神として歩んで来た、神の赦しを拒み続けて来た、神が言われるのは、この聖い創造主なる神に逆らって来た自分自身を捨てなさいです。すなわち、自己中心で神に逆らい続けている自分自身、その生き方もその考えもその夢も、そして、これまで神以上に愛して来たものすべてを捨てなさいと言います。そして、神であり主であり救い主であるこのイエスを自分の神、主として心から信じて彼に従うことを決心するのです。皆さん、神に逆らって来た自分を残したままでは新しい人生は始まらないのです。

イエスはこのようなことを話されました。ヨハネ１２：２４－２５**「まことに、まことに、あなたがたに告げます。一粒の麦がもし地に落ちて死ななければ、それは一つのままです。しかし、もし死ねば、豊かな実を結びます。:25 自分のいのちを愛する者はそれを失い、この世でそのいのちを憎む者はそれを保って永遠のいのちに至るのです。」**、ピリポのもとにギリシャ人たちがイエスにお会いしたいとやって来るのです。そして、ピリポがイエスにそのことを伝えに行ったときにイエスはこのように言われたのです。イエスは群集がよく知っている麦の話をされました。一粒の麦が死ぬことによって実を結ぶと。同じように、自分に対して死ぬ者が永遠のいのちを受ける、永遠のいのちをいう実を結ぶと言います。そのように教えられたのです。分かっていることは、自分で自分のいのちを奪いなさい、自殺しなさいということを言われたのではないということです。イエスが教えておられることは、永遠のいのちを受けるには、すなわち、救われるためには自己中心で神に逆らい続けている自分は死ななければならないということを教えたのです。つまり、すべてを捨て去る決心です。それらを憎むことです。なぜなら、今まで私たちが生きて来たこと、私たちが追い求めてきたこと、それらは神に喜ばれるものだったかどうか考えて見てください。私たちが愛し、私たちが宝物とし、私たちが追い求めてきたこと、それらはすべて私たちが神によって造られた者として歩む道から外れたものです。私たちが愛してきた、求めてきたことを見て神はそれを喜んでおられるでしょうか？そのような神が憎まれ悲しまれていることを私たちはなぜ愛し続けるのでしょう？イエスが教えておられることは、あなたはそれらよりもわたしを愛するのかということです。あなたを愛しますがこれも捨てられないというのは信仰ではありません。イエスが教えておられることは、自分が今まで宝としてきたこと、自分が自分を中心にものを考えてそのように生きて来た人生を、喜んで捨て去ることができるかどうかということです。私たちはそのことを考えなければならないのです。パウロはローマ６：４でこのように言いました。**「私たちは、キリストの死にあずかるバプテスマによって、キリストとともに葬られたのです。…」**、つまり、みことばが繰り返していることは、イエスを信じるということは、私たちが今まで神を無視して神に逆らって来たその自分のすべてを喜んで捨てることです。そして、本来あるべき姿に立ち返ろうとするのです。それは神を信じて神を愛して神に従って行こうとすることです。その選択ができるかと言うのです。神に逆らって来た自分が死ぬことで新しい自分が始まるのです。それがみことばが私たちに教えている神の招きなのです。聖書のどこにも今までの自分をそのままにしてイエスを信じなさいということなどありません。イエスが言われている救いのメッセージは厳しいメッセージです。それを聞いて私たちは「いったいだれが救われるのでしょう？」と言うかも知れません。みことばが言うのは「人にはできないが神にはできる」です。神が働かれないならこのようなことはできません。しかし、私たちがしっかり覚えなければいけないことは、神が私たちに対して命じておられることはどういうことかです。「あなたは自分を捨ててわたしに付いて来るか」ということです。私たちのすべてをキリストに明け渡すことです。それができるかと言われるのです。

２）イエスによって完全な救いが与えられることを信じて受け入れること

イエスが備えてくださった救いは完璧なものです。このイエス・キリストを心から信じ受け入れることによって、神があなたを救うことによって、あなたは完璧な完全な永遠の救いをいただくのです。それを信じることです。

今話してきたことをまとめます。今、私たちが聞いてきたことは非常に厳しいメッセージです。このようなメッセージを私たちはなかなか耳にしないのです。でも、皆さん、私たちはこうして学んで来ていますが、これは難しいメッセージ、これは人が受け入れることはできないメッセージであると考えること自体が罪なのです。神はそこまで私たちにしなさいといわれているのではありません。見て来たように、私たちに託されたこと、私たちの責任は、神が言われていることを正しく伝えることです。なぜなら、そうすることによって、神はそのみことばを祝してくださって、そのみことばを用いてくださって、神のみわざがなされて行くのです。神の福音のメッセージを聞いたとき、神がそれぞれの心の中に為してくださるわざというのは、罪人が非常な恐れを抱くということです。神の救いのメッセージを聞いたとき、神がすべての罪人のうちになされることは、非常な恐れを抱くことです。なぜなら、自分は神によってさばかれてしまう、自分は間違いなく今地獄に向かっている、今死んでしまったら私は間違いなく永遠の滅びに至るのだと、そのことが現実に明らかにされるからです。あのペンテコステのときにペテロがメッセージをしました。それを聞いていた人々は**「…心を刺され、ペテロとほかの使徒たちに、「兄弟たち。私たちはどうしたらよいでしょうか。」**（使徒２：３７）と言っているのです。心が刺されたのです。自分の罪が示されたのです。神の前に恐れを抱き**「私たちはどうしたらよいでしょうか。」**と言ったのです。なぜ、そのようなことが起こるのでしょう？それが聖霊なる神のわざなのです。ヨハネ１６：８に**「その方が来ると、罪について、義について、さばきについて、世にその誤りを認めさせます。」**とありますが、それが聖霊なのです。聖霊なる神はみことばを聞く一人ひとりのうちに罪を示してくださる、義について、さばきについて明らかにされる、だから、皆恐れるのです。そして、その恐れを抱いたとき

に私たちはキリストに希望を見出すのです。このキリストが私を赦してくださり、救ってくださり、生まれ変わらせてくださると。

ある人たちは福音を聞いて喜んで受け入れます。しかし、みことばはこのような警告を与えています。マタイ１３章にイエスが種まきの話をされた記事があります。その中で岩地に蒔かれた種のことがこのように記されています。**「また岩地に蒔かれるとは、みことばを聞くと、すぐに喜んで受け入れる人のことです。:21 しかし、自分のうちに根がないため、しばらくの間そうするだけで、みことばのために困難や迫害が起こると、すぐにつまずいてしまいます。:22 また、いばらの中に蒔かれるとは、みことばを聞くが、この世の心づかいと富の惑わしとがみことばをふさぐため、実を結ばない人のことです。」**、分かりますか？この岩地に蒔かれた人もいばらの中に蒔かれた人もクリスチャンではありません。救われていないのです。彼らはみことば聞いて喜んで受け入れた、けれども、困難が生じたら離れてしまうのです。彼らはイエス・キリストよりもこの世に関心があるのです。だから、**「この世の心づかいと富の惑わしとがみことばをふさぐ」**と言ったのです。つまり、彼らの関心がどこにあるかということを言ったのです。神のみことばはすばらしい、慰めを与えてくれる、希望を与えてくれる、だから、私は好きだと言うかも知れません。福音のメッセージを聞いて喜ぶかもしれません。しかし、みことばが警告しているのは、その信仰が本物かどうか分からないということです。

神が私たちに語ってくださった、そして、私たちに託してくださった福音のメッセージ、それは神を知ることです。この方は創造主であり、この方は聖い罪のない正しい方であり、あなたに聖くありなさいと命じておられる神です。あなたには責任があるのです。あなたは神の目にどのように映っているのか、汚れに汚れた罪人です。汚い布は大切に残したりしません。捨てます。罪に染まった私たちを神はご覧になって、私たちのうちに何の良いものも見出されません。それが私たちです。しかも、私たちは神に逆らい続け神の前に心を頑なにして心を開こうとしません。当然、焼かれて捨てられてしかるべき存在なのです。私たちは自分で自分をきれいにすることはできません。救いに関して全く希望のない私たちです。確実に、あなたがイエスを信じていなければ、救いによって罪赦されていなければ、この瞬間にあなたは地獄に向かっているのです。そして、イエス・キリストはそのようなあなたのことを知ってこの世に来てくだり、あなたのすべての罪を負って十字架で死んでくださったのです。そして、あなたの罪を神は赦そうとしてくださっているのです。あなたはこのイエス・キリストを心から受け入れることです。これまでの神に逆らって来た罪の生き方を捨てて、イエス・キリストをあなたの神と信じて、主と信じて、この方を心から受け入れて従って行く決心をすることです。あなたは何を愛しますか？このイエス・キリストですか？それとも、神が憎み神が悲しみ忌み嫌っておられる罪の生き方ですか？

これが神が私たちに託してくださった福音のメッセージです。罪を悔い改めて心からイエス・キリストを受け入れなさい、あなたのすべてをイエス・キリストに明け渡してこの方をあなたの主として受け入れなさいと。皆さんが考えなければいけないことは、これが私の信じた福音のメッセージであったかどうかです。そして、これがあなたが語っておられる福音のメッセージであるかどうかです。一人ひとり、自らの信仰を吟味してください。そして、私たちは次回集まるときに、自分の心を吟味して、本当に私は神によって救われているということ、それがどうして分かるのか、そのことをごいっしょにみことばから見て行きます。それは、人から言われて分かるものではありません。もし、あなたが救われているのにあなたの心がそれを疑っているときに、周りの人が大丈夫だと言ってくれるからそうかと思うことは危険なことです。あなたが本当に救われていたら、神があなたの心の中から「あなたは救われている」ということを教えてくれます。どのように教えてくれるのか、救われた人にはどのような証拠があるのか、そのことを私たちは次回見て行きます。でも、今日、皆さんはご自分の信仰を吟味してください。この福音を、このイエス・キリストを、あなたは心から受け入れたかどうか、そして、すべての人たちがこのすばらしい救いに漏れることがないように、そのことを願って止みません。